

縁をつむぐ国際協力

特定非営利活動法人 JIPPO (十方)



新春

巻頭言

「すべての人々が穏やかに暮らせる世界のために」

循環性・多様性・関係性の創出

新しい年を迎えるにあたって、これまでの活動を振り返り、将来構想の指針を見つけたい。JIPPO事務所では、昨年から職員に加わった高木美智代を中心に、定例的なミーティングを持ち、さまざまな議論を積み重ねてきた。この巻頭言は、その要約と将来への展望である。とりまとめの文責は、中村尚司にある。

循環性の永続

ホームレス支援事業の初期、野宿者の所在を確認するため、河川敷から堤防を登ったり降りたりした。急いで駆け上がったたり下りたりすると、動悸が早くなり胸が苦しくなる。立ち止まって脈動を測ると、心拍数が150を超える。70年以上も働き続けてきた心臓には、負担が大きすぎるのかもしれない。老化した手足の毛細血管まで、無酸素運動に必要な血液循環を維持するのは、容易なことではない。

活動レベルを下げ、歩調を緩めると、心拍数も100前後に落ち着く。野宿者との対話を繰り返しながら、ゆっくり歩く。すると老いた身体でも、定常的な有酸素運動を続けられる。永続性が必要なのは、人間の身体組織における体液循環だけではない。

水惑星の地球も同じである。太陽光線を受け取る比熱の大きな水は、河川や海面、あるいは動植物の体表から蒸発散して、断熱上昇を繰り返して大気圏の上層に至る。そして水分

子の赤外線放射によって、廃熱を宇宙空間に捨てるとともに、再び雲、霞、霧、雨、雪、雹などに姿を変えながら地球の表面に戻り、持続的な循環によって生命系の活動を支える。循環性の永続を重視する私たちが、フェアトレード商品の中でも有機農業の産物に力を入れるのは、生命と地力の循環に寄り添いたいからである。そうしてこそ、環境問題の解決をめざし、自然災害に備える基礎を築けるのではないか。将来のJIPPOの活動は、血、水、エネルギー、農林畜産などにみられる循環性の永続をめざしたい。

多様性の展開

近代社会では、経済的な効率性を高め、市場競争に勝ち抜こうとする。多種多様な経済活動の共存は、効率中心の生産性向上の妨げである。価格競争では、効率の良い単一商品の大量生産が、ビジネスの勝負を決める。見渡す限り紅茶ばかりのプランテーションや、コーヒーばかりのモノカルチャー農場は、近代植民地支配の遺産でもある。しかしお金だけが、暮らしの豊かさを決めるものではない。市場競争に対抗するフェアトレードの展開は、効率性が落ちても、農薬や化学肥料を使わない有機農業に向かう。特定作物への過剰な依存から脱け出す多角的な複合農業が、生産者を人間として尊重する本来の生業であろう。

もともと、人間の生活は多様、多面、多角であり、人びとの暮らしは市場競争に勝ち抜くだけでは完結しない。古典ギリシャの昔に帰れば、経済とはオイコス・ノモス(老若男女の暮らし方)であり、生態とはオイコス・ロゴス(生き方の流儀)である。共に生きることこそ、人間らしい営みである。貧困や環境の困難な課題に取り組むには、多様性を抜きにして語るができない。JIPPOの活動は、ひとりで百の仕事をする農民のような多様性の展開をめざしたい。

関係性の創出

スタディツアーに参加して、スリランカの幼稚園や東ティモールのコーヒー生産者組合を訪ねると、見知らぬ世界で暮らす人びとの交流が深まる。新しい絆が生まれる。異なった経験を持つ人びとと取り結ぶえにしが、暮らしを豊かにする。お金が媒介する関係よりも、顔の見える付き合いを通じて、人の暮らしが充実する。ホームレス支援が、貧困ビジネスに墮落しないためには、地域社会の一員としての相互協力が大切であろう。その反対に、対等で直接的な付き合いを拒絶することから、差別や暴力が始まる。差別や暴力の延長線に、軍事力の行使や世界戦争が続く。環境、貧困、災害救援、平和構築の課題に取り組むJIPPOは、対話や交流を通じ問題解決を図りたい。



特集

JIPPOフェアトレードのかたち①

JIPPOの活動の中で最も広く大勢の方々に支えられている活動「フェアトレード」。紅茶やコーヒーを購入することでスリランカや東ティモールの人々の暮らしを支えようという活動です。でもフェアトレードって何なのかよく分からないし値段も高いと感じている方も多いでしょう。現地の人々が十分な対価を得ているはずと期待する半面「本当に現地の役に立っているの？」と疑問もわいてきませんか？今回からシリーズでJIPPOのフェアトレードの仕組みを整理し、その意義やめざす事業のかたちを考えていきます。

プランテーション労働者の生活向上を目指す「ウバ紅茶」

紅茶をめぐる交易と

植民地支配

常緑樹の茶は、植物学的にツバキ科ツバキ属

に分類されます。その原生地は、中国南部の雲南省です。植物としては紅茶も緑茶も変わらず、基



茶の木

本的な両者の違いは、茶葉の酸化酵素を活かすかどうか、という製造過程によります。

緑茶と異なって、紅茶産業はその出発点から植民地支配が刻印されています。ボストン茶会事件が、イギリス植民地からアメリカ独立戦争を導いたように、紅茶貿易は植民地支配からの脱却と繋がっています。JIPPOが輸入するウバ紅茶も、いかにして植民地性から脱却するか、という課題を背負っています。

1815年に始まるイギリスのスリランカ植民地経営は当初、オランダ同様に肉桂貿易独占を目的としていました。1830年代からプランテーション農業へと転換し、山地にコーヒーを栽培し、南インドの労働力を移植しました。

1880年代にコーヒーの葉の病害がひどくなったうえ、国際市場におけるブラジル産コーヒーとの競争条件も悪化し、代わりに紅茶への植え替えが進められました。

20世紀に入ると、同じプランテーション方式によるゴムの栽培が行われるようになりました。紅茶とゴムの農園に居住するタミル人労働者の定住化が進み、老後も南インドへ帰らず、生活の本拠を中央山地に置いています。1948年、インドとスリランカが政治的独立を達成すると、これらのタミル人労働者(約100万人)は、双方の政府から市民権を与えられず、無国籍状態を余儀なくされました。在日コリア人と似た境遇です。両国間の交渉が繰り返され、1964年には一定の比率(インド8名に対してスリランカ5名)で受け入れることに合意しました。この協定は、実施に長い年月を費やし、インド・タミル人が最終的に、いずれかの市民権を取得したのは20世紀末でした。

脱植民地化の歩み

植民地経済を引き継いだ独立国スリランカでは、輸出の九割以上を紅茶、ゴム、およびココナツの三大作物が占めていました。イギリス植民地から独立したアメリカにおいて奴隷制度が衰退し、綿花プランテーションが自作農経営に変わったように、スリランカでもプランテーションの付属物だった茶園労働者が、プランテーション離れする過程が少しずつ進んでいます。

1975年にはプランテーション部門の農地改革が実施されました。土地改革委員会によって収用さ

れた茶園は、農民や農園労働者に再配分されることなく、二つの巨大な公社経営に統合されました。しかし、公社経営のままでは生産性が低落する一方なので、再び80年代後半から民営化が推進されました。

民営化といっても、国有地のまま50年単位で政府から私企業にリースされました。女性の茶摘み労働力に依存しながらも、イギリスの植民地時代からの指揮命令システムを重視する労働組織は、官営化でも民営化でもほとんど変わりません。しかし、茶園内の住宅、道路、学校、診療所などの施設は土地改革以前と異なり、政府の住宅省、道路省、教育省、保健省などが管理しています。

JIPPOが輸入するウバ紅茶の産地、グリーンフィールド農園は、アガルワッタ社にリースされた茶園をランカ・オーガニックという有機農業の企業が再リースしてもらったもの



茶園で働くタミル人の女性

です。このランカ・オーガニック社の創業者ムットゥサーミ氏は、奇しくも南インドから移住してきたタミル人労働者の子孫です。そしてグリーンフィールド農園の経営管理人に任命され、茶園に駐在しているのは英国から移住した経営者二世のニューマン氏です。



ニューマン夫妻

輸出市場に占める紅茶の地位は低落し、90年代における第1の外貨獲得源は、輸出加工区の縫製業へ代わりました。大量の女性労働力が雇用される点では、プランテーション農園と同じです。茶産業が工場的農業だとすれば、縫製業は農園的工業です。

フェアトレード商品の流れ

日本の茶摘みと違って、スリランカでは年間約50回、言い換えると毎週茶摘みをします。紅茶工場で製品をグレード分けしたのち、コロンボの紅茶オークションに出し、競売します。ここで決まる価格に輸出関税や輸送費用を加えて輸出されます。有機紅茶の場合、生産する茶園が少なく、競争市場が成立しないので、近隣の茶園の製品価格や生産費を参照して、消費者団体と交渉して決めます。欧米の景気後退に伴い、有機紅茶の輸出も影響を受けました。グリーンフィールド

農園の紅茶は、主にドイツとアメリカに輸出されていましたが、リーマンショック以降は輸出量が低落しています。JIPPOはパルシックと共同輸入していますが、欧米諸国に比べて数量が少ないため、まだ価格に影響力を及ぼすには至っていません。

茶園労働者の賃金は、全国統一基準で1日当たり500ルピー（日本円で約500円）と政府が定めています。この賃金額は他産業と比べると、約半額の水準であり、スリランカ国内で、最も所得水準の低い階層だといえます。この貧しい暮らしを少しでも改善したいと考え、JIPPOではフェアトレード事業に取り組んでいます。

JIPPOが輸入するウバ紅茶は、スリランカでは数少ない有機農産物です。オランダに本部のあるFLOの認証を受け、1kg当たり10ルピー（輸入時の円換算で約10円）を生産者に還元してきました。グリーンフィールド農園では、労働者の代表が中心になってフェアトレード委員会を組織し、労働者の福利厚生施設の建設と維持管理費に使っています。これに加えてJIPPOでは、会員を中心に販路を広げ、収益の10%を現地に返し活用してもらうように準備しています。

紅茶を積んだ貨物船

が横浜港につくと、静岡県掛川市の流通サービス社工場へ移送し、ティーバッグなどに袋詰めします。

産地の民衆と交流を深める

ささやかな金額を労働者の団体に還元するだけでは、生活改善の効果は限られています。根本的な課題はプランテーション経済制度を改革し、自作農化を進めることです。その視点を見失うことなく、JIPPOでは紅茶輸入のかたわら、産地の民衆と交流を深めるため、さまざまな交流をしています。スタディツアーを企画し、産地住民を訪ねるだけでなく、茶園労働者の子供たちの幼稚園改修、その教育にあたる先生方の研修、篤志家の寄付による園児の制服支援なども行っています。生産者と消費者が直接的に交流を深めることの方が、商品貿易の拡大以上にフェアトレードの重要な役割だ、と確信するからです。



リプトンの製茶工場の前で

JIPPOフェアトレード「ウバ紅茶」の価格の推移

商品名（茶葉グレード）	コロンボでのFOB価格	横浜でのCIF価格	JIPPO仕入れ値	会員価格
リーフ200g（BOP1）	8.95US\$/kg	最少ロット350kg 9.35US\$/kg	仕入れロット2500パック 1,125,000円（@450円） +消費税	600円
ティーバッグ（BOPF） 2.5g×20パック	7.15US\$/kg	最少ロット350kg 7.15US\$/kg	仕入れロット2500パック 1,125,000円（@450円） +消費税	600円

特集：JIPPO
フェアトレードのかたち

生産者組合の発展を支える
「カフェ・ティモール」

コーヒー産業に頼る
東ティモールの人々

東ティモールの最大輸出品であるコーヒー。実に人口の1/4にあたる人々が何らかのコーヒー産業に依拠して生活しているともいわれています。ところが一般のコーヒーの取引価格はニューヨークの国際市場価格によって決められ下落の影響が大きい。燃料等のコスト高にも悩まされてきました。多くの生産者は摘み取ったコーヒーの実を果肉の付いたまま大手の共同組合や華僑系の輸入業者に販売するしかなく立場も弱いのです。コーヒー農家の生活は危機的な状況でした。そこで日本のNGOであるパルシックは2002年、東ティモールの中

央部にあるマウベシという地方で生産者組合(コカマウ)を組織し、集落ごとにコーヒーの1次加工(果肉を除き乾燥させる)ができるよう支援しました。コカマウで出荷されるコーヒーをフェアトレード価格で引き取り、日本などで販売しています。JIPPOもパルシックと連携し、設立と同時にこの販売を始めました。

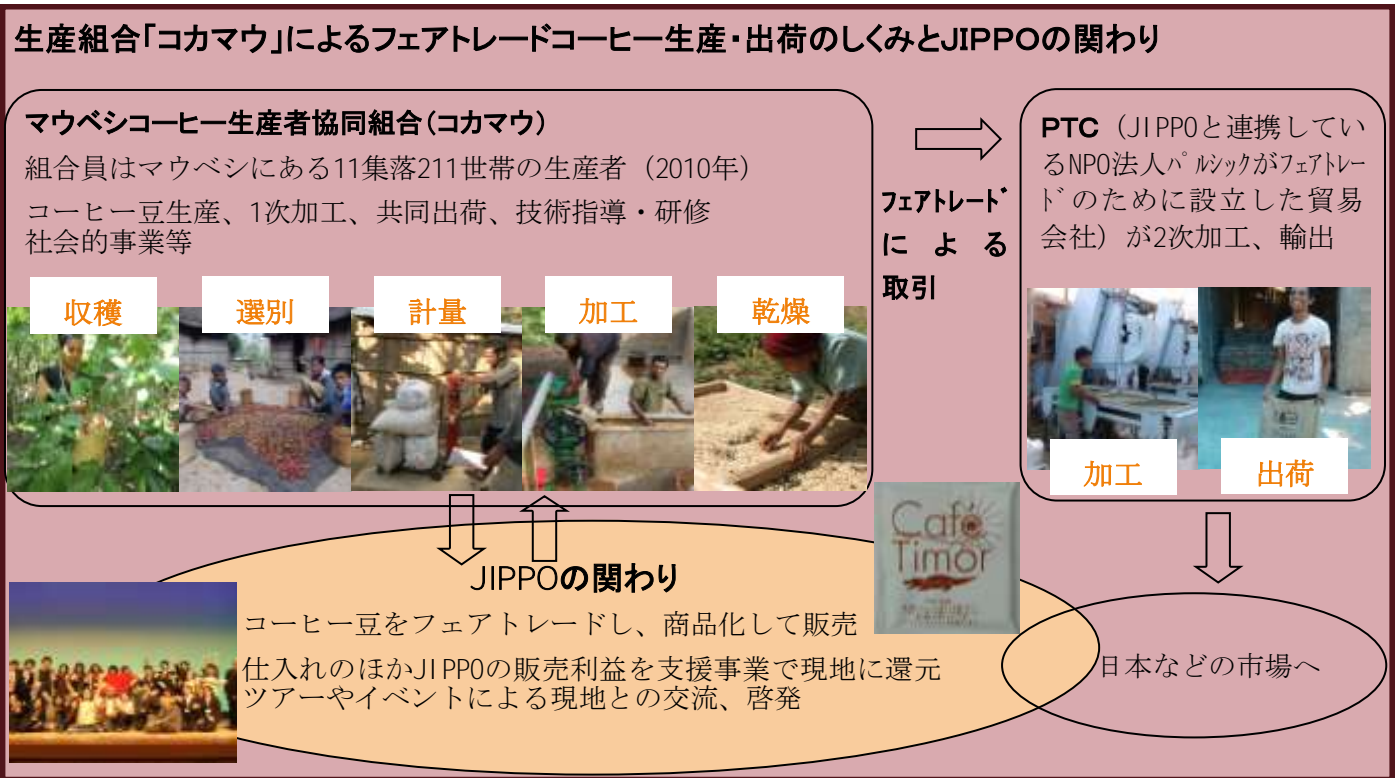
「認証」の有無 異なるフェア
トレードの二つのかたち

「ウバ紅茶」のグリーンフィールドは世界的なフェアトレード認証団体である「FLO」の認証を受けていますが、コカマウは認証を受けていません。なぜなら小規模の生産組合を対象としているこの事業は、生産

者と直接顔の見える関係の上に成り立っており、販売も消費者に説明できる範囲の小さな市場なので大市場で不特定の消費者が「フェア」を選択しやすくするためのラベルはさほど必要ではありません。また認証を受けるには多大な経費がかかるため、それを商品の価格に上乗せすることになるのを避ける理由もあります。

仕入れ価格と販売価格のひらき

フェアトレードの価格は生産者が人間らしい暮らしや持続可能な活動ができるためのコストのほか、生産組合が社会的活動や生産者の生活を支援するための余剰金を加算して決まります。今年コカマウへ



の買い取り価格は1kgあたり2ドル10セントでした。このうち1ドル90セントが生産者へ、20セントが組合へ支払われます。組合はこの余剰金を組合員への配当金や社会事業に当てています。フェアトレードは生産者に対して最低価格を保証している点で不安定な市場価格に左右されず不当な搾取からも守られますが、実際の国際市場価格よりかけ離れた高値がつくということではありません。

JIPPOのカフェ・ティモールは、生産者から買い取ったコーヒーのパーチメントを日本で1kg800円～950円の生豆で仕入れることができます。現在JIPPOでは1杯分ずつドリッパーに商品化しています。1袋(10g×10パック入り)を千個のロット480,000円(単価480円)+消費税で仕入れ、会員価格1パック600円(消費税込)で販売しています。

JIPPOフェアトレードの意義

生産者が200円の収入を得るために5200円のコストをかけるフェアトレードをどう見るか。フェアトレードより農民に直接資金を援助した方が貧困対策になるのでは?と思われるかもしれませんが、でもJIPPOの考えではそれは「否」です。

生産者からコーヒーを買わずお金を支援したら、せっかく作ったコーヒーは売れ残ります。現在、コカマウの生産するコーヒーはすべて日本で買い取っていますから、生産物が余ることは大きな打撃です。需要と供給の関係でコーヒーの価格はさらに下がるでしょう。

コーヒーを売る代わりに一時的に大金を手にしても、持続可能な生活を維持する資金になるとは限りませんし、依存を引き起こす原因にもなります。さらに支援金の分配には多くの問題が伴います。JIPPOがめざす協力は東ティモール

の人々が自らのちからで豊かな生活を作り上げていく過程に寄り添うところにあります。

共に対等な関係を築く

昨夏視察に訪れたコーヒー生産農家で、家主のお父さんが述べた言葉が強く心に残っています。「日本から訪ねて来てくれてありがとう。たくさんの言葉をありがとう。自分たちの生活は見てもらったようにシンプルだが、自分たちのことを忘れないでほしい。そして我々のコーヒーを日本でより良いものに変えて売ってくれていることに感謝します。日本と東ティモールは離れているけれど、より良いコーヒーを共に作って、売れるようにお互い頑張っていきましょう」。村の人々は礼儀正しく知的で慎み深く、一つひとつの言葉は誇りといわりに満ちていました。

私たち日本の消費者、JIPPOができることはこのころ豊かな関係性を積み重ねていくことではないでしょうか。フェアトレードは歴史的に見れば目の前の困窮者を救おうと現地の産品を販売したのが始まりですがその様相は「支援してあげ



コーヒー農家での懇談のようす

る」という色彩から「互いに対等なパートナー」として尊重しあうかたちに変化しているといわれています。JIPPOのフェアトレードも「循環性、多様性、関係性」を築くころ豊かな事業を展開していきたいと考えています。

これからの目標

コカマウでは今後組合の規模を400世帯、100トンの出荷に増やし、政府公認の法人格を取得することを目指しています。それには市場の拡大が不可欠で、現状の日本国内の販売量では賄いきれません。JIPPOでも取扱量を増やし製品のコストを抑える努力をしていきます。新たな試みとして独自に焙煎し、業務用コーヒー豆の商品開発も手掛ける計画です。同時にJIPPOでは、生産地に必要な社会事業の支援などを検討していきたいと思っています。

JIPPOは途上国に住む人々の暮らしを日本で広く伝え、生産者の安定した暮らしのために、お互いに顔の見える関係性を築きながらフェアトレード事業を進めていきたいと思っています。



JIPPOウバ紅茶、カフェ・ティモール
ご愛顧の方からご感想をお聞きしました

今年、多くの会員の方々にJIPPOのフェアトレード商品をご利用いただきました。その中から3人の方に感想をお聞きしました。

北海道の山階照雄さんは「本願寺は全国に1万カ寺のお寺があります。お寺の皆さんにも社会貢献、国際貢献の理解を深めていただき、JIPPOの活動に賛同していただきたいという思いでみなさんに紹介しています」と話し、カフェ・ティモールのミニパックを商品化する際も、アドバイスをいただきました。コーヒーはご門徒さんにも「おいしい」と好評で、大勢お寺に買いに来てくださるそうです。

富山県の林敬子さんは昨夏にJIPPO主催のスリランカスタディツアーに参加し、紅茶の生産地を訪問

する中で生産者が置かれている大変な現状を目の当たりにし、応援したいと思ったそうです。帰国後ウバ紅茶だけでなくカフェ・ティモールもイベントで販売したり、お使い物にも積極的に使ってくださいしています。

11月初旬、熊本教区教務所よりティーバッグ1800個というJIPPOフェアトレード始まって以来の大きな注文をいただきました。12月5日に開く「熊本教区門信徒の集い 仏教壮年大会」の記念品として参加者の皆さんに配って頂けることになったのです。

担当の檜林龍祥さんから実行委員会の皆さんは、記念品を選ぶにあたり何度も話し合いを重ねる中で、「仏教壮年大会の趣旨を考えたときに記念品そのものが社会貢献につながるものがふさわしい」と考え、JIPPOのフェ

アトレード紅茶を選びました。味は職員のお墨付きで「紅茶好きならきっと気に入ってもらえる」と思ったそうです。大会当日はJIPPOの常任理事でもある仏教壮年会連盟理事長幸田昌三さんがあいさつの席で「仏教壮年大会が成長するうえで社会の役に立てる組織になっていかななくてはならず、記念品にもその気持ちを込めた」と説明されました。

みなさんの「JIPPOのフェアトレード紅茶を使用することで、品物は消えても願いは伝わって、つながっていくでしょう」ということばに励まされる思いでした。3人の方にインタビューをして、JIPPOが様々な人に支えられて活動をしていることを改めて実感しました。(スタッフ 山田朋余)



フェアトレード販売のようす

10月28日、JIPPOは龍谷大学ボランティア・NPO活動センターと共催で、第2回

「平和」と「貧困」を考える集いを開催し、音楽ドキュメンタリー映画「カンタ！ティモール」の試写会とエゴ・レモスさん、小向定さんのライブコンサート「東ティモール～戦火を越えた

東ティモールについて理解を深めた
第2回「平和と貧困を考える集い」

音楽の島～」を行いました。

会場の龍谷大学アバンティ響都ホールには約100人が集まり、普段あまり接することのない東ティモールについて考える良い機会になりました。

映画は東ティモールがインドネシア軍の占領から解放されるまでの惨状と人々の平和への思いを現地の歌とともに描いたドキュメンタリーです。平和が当たり前でないことや、自然とともに豊かに生



エゴさん(右)と小向さんのライブのようす

きることの大切さが強く伝わってきました。続くライブはともにティモールの地を守っていこうというメッセージを力強い歌声で訴えました。観客に太鼓やタンバリンを手渡し、一緒に歌い、リズムをとっているうちに会場とステージが一体になり気持ちの良い時が流れました。映画とライブはまさに平和を心に描くのに素晴らしい組み合わせでした。

イベントは龍谷大学ボランティア・NPO活動センターの学生ら10名も運営にあたり成功裏に終えることができました。終了後出演者と歓談できたのは、ボランティアにとっても楽しい貴重な体験になりました。

「災害救援・復興」支援 JIPPOの取り組み

2010年は世界的に巨大な自然災害が数多く発生した年でした。

1月12日、カリブの島ハイチでの大地震、2月27日は南米チリでマグニチュード8.8の記録的な大地震が発生。国連をはじめ各国の救援活動が各地で続く中、4月14日には中国青海省玉樹チベット族自治州にも地

震が襲いました。

また異常気象で日本は夏の猛暑にあえぐ一方、世界各地では洪水の被害が相次ぎました。中でもパキスタンでは国民の1割以上が被災し死者は3800人以上に達したといわれています。

これらに対しJIPPOでは、事業の柱として掲げている「災害救援・復興」の支援として災害義援金を募集しました。下記のようなそれぞれの委託先では、現在も救援・復興の活動を展開しており、寄せられた浄財が有効に活用されています。微力ながら、本年も災害救援活動を続けるつもりです。

マイクロファイナンスで 暮らしを支援

ハイチ地震災害義援金

CODE 海外災害援助市民センター

「CODE海外災害援助市民センター」は、1996年の阪神・淡路大震災の被災経験を生かし、海外の災害救援・復興活動を行っている団体です。スマトラ島地震・インド洋大津波など世界各地の災害地で被災者援助を行ってきました。ハイチ地震では、1月25日からメキシコ人研究員を派遣し、支援活動を行ってきました。

今後の中長期的な支援として、現地で前向きな活動をしている3つの団体と連携し、被災者どうしが集い、ともに学ぶ場となるコミュニティーセンターを建設したり、マイクロファイナンス(小規模融資)による農業支援や生活再建を進める予定です。

CODEは現地の文化や習慣を大切にして生活の再建を支援しています。その方針にJIPPOも共感しています。

洪水から村を守る 沿岸壁をつくりたい

パキスタン洪水災害義援金

GRACE ASSOCIATION PAKISTAN

JIPPOは集まった募金を大きな支援団体が行き届かない被災地の、草の根活動に役立てたいと考えています。パキスタン洪水では現地に在住する国際協力に精通した日本人を通じて信頼できる現地NPOを見つけ、直接支援することを決めました。

寄託先の団体「グレース」からは、パキスタン北部の山間部にある被災地に、洪水から村を守るための沿岸壁を作りたい、と要請がありました。川幅が洪水によって10倍に広がってしまい、次にモンスーンに襲われると、村は壊滅してしまうと危惧しているからです。この冬、村人たちは厳しい寒さの中、資材の石材を地元の山から切り出し、河川1800mのうち、特にリスクの高い150mの箇所の工事に着手します。

JIPPO 2010年災害募金活動一覧

募金名称	受付期間	募金総額	寄託先
ハイチ大地震義援金	2010年1月22日から 3月31日まで	54,426円	特定非営利活動法人CODE 海外災害援助市民センター
パキスタン洪水災害 義援金	2010年8月19日から 9月30日まで	258,002円	GRACE Association Pakistan

インフォメーション 2011年1月～4月の予定

本願寺御正忌報恩講 JIPPOバザー

日時:1月9日(日)12:00～16:00

1月14日(金)、15日(土)10:00～16:00

場所:本願寺北境内地駐車場 聞法会館南側テント

目的:収益金をJIPPOの事業の一つである「野宿者支援」のための活動資金とします。



きょうと夜まわりの会/希望の会主催

第16回もちつき大会に協力します。

日時:1月9日(日)10:00～14:00 (雨天の場合は順延)

場所:京都市 東本願寺の東側(烏丸通り 噴水前)

内容:野宿の方々が集まり、炊き出し、餅つき大会を行います。JIPPOも参加します。

ミャンマー寺子屋給食ツアー

期間:1月26日(水)～31日(月)

内容:ミャンマー・ヤンゴンの郊外にある「シュエ・ジン寺子屋」を訪れ、子どもたちと給食を通じた交流を行います。

※ツアー参加申し込みは締め切りました

野宿者支援 1月の巡回日

日時:1月27日(木)14:00～19:00

場所:京都市

山科川、東高瀬川、西高瀬川

内容:今月は1日で3つの河川を巡回し、野宿の方々を訪問します。

※参加希望者は事前にJIPPO事務局へお申し込みください。

ワン・ワールド・フェスティバル

に参加します。

日時:2月5日(土)10:00～17:00

2月6日(日)10:00～16:00

場所:大阪国際交流センター

(大阪市天王寺区上本町8丁目2-6)

内容:関西で活動するNGO、NPOなどが一堂に会し、活動紹介や模擬店などを行います。JIPPOも参加します。



～事務局だより～ あけましておめでとうございます

1月はバザーにミャンマーツアーと大きな行事を控えています。既存事業の充実とともに、新たな取り組みも進めていきたいと思っております。JIPPOの活動がパワーアップしていくよう、ぜひお力添えください。また、お近くにお越しの際はJIPPO事務所へお立ち寄りください。皆さまと顔の見えるご縁を深めていきたいです。(い)

JIPPO会報第4号 (2011年1月1日発行)

発行: 特定非営利活動法人 JIPPO
〒600-8501 京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町本願寺内

TEL: 075-371-5210

FAX: 075-371-5240

e-mail: office@jippo.or.jp

URL: http://jippo.or.jp